

## 卒業論文の要旨

論文題目	外国人労働者の長期滞在に伴う幸福感 ～元エンターテイナーのフィリピン人女性の語りから～
氏名	長谷川志穂
メジャー	文化人類学
<p>(要旨) 要旨については、本文参照。</p> <p>本研究では、元エンターテイナーとして来日したフィリピン人女性の主観的ウェルビーイング (Subjective well-being, SWB) について検討した。本研究の特徴は、第1に、来日前、来日後、エンターテイナーの仕事を辞めた後の3つの時間軸に分けてそれぞれの体験や語りを詳しく分析することで、より詳しいその時の感情からSWBの構成要素を分析したこと、第2に、インタビュー協力者の来日後との労働環境の比較のために、フィリピン国内の労働について家庭環境を含め分析したこと、第3に、分析したSWBの構成要素のうちの1つにジェンダーの視点を交えSWBとの関係性について分析したことである。</p> <p>研究方法は、3人の事例について半構造化面接を用い、得られたデータをグラウンデッド・セオリー・アプローチ (Grounded Theory Approach, GTA) により分析した。来日前のフィリピンでの生活、来日後のエンターテイナーとして働いていた時、転職後非正規社員として働く現在3つの時代背景に関する肯定的・否定的情動体験を分析した。その結果、SWBは【人間関係の安定性】、【心身の健康】、【労働環境の良さ】の3つの中カテゴリーと9つの小カテゴリーで構成されていることが分かった。長期滞在により変化したのは、労働環境の良さではエンターテイナーの頃は母国に給与を送金できる喜びが、現在では喜びから仕送りが負担になっていた。心身の健康では、現在の夜勤の方がエンターテイナーの頃よりは楽に感じるほどエンターテイナーは体力的にきつかった。人間関係の安定では、現在は日本語の習得により日本人ネットワークが広まりつつあるが、読み書き能力ではまだ習得が必要である。また、フィリピン人女性がこれまで様々な労働を経験し、日本でも働き続けている理由の1つに、女性が働くことは当たり前だという彼女らのジェンダー観があるため、SWBには労働に伴う満足感が含まれているということも明らかになった。</p> <p>本研究から得られる日本の外国人労働者受け入れへの示唆として、外国人労働者の職業選択の機会が奪われている問題があること、さらに、そうした人々が日本で労働するためのサービス支援を充実させることの重要性について述べる。</p>	
<p>(指導教員の推薦のコメント)</p> <p>本研究は、元エンターテイナーのフィリピン人女性への詳細な聞き取りをもとに分析した秀作である。興業ビザの問題は社会学で多く取り上げられてきたが、本研究は彼女たちのSWBの変化を来日前から現在まで扱っていること、さらに、労働環境などマクロな文脈を分析している点がユニークである。彼女たちの日本での生活の複雑な思いと変化を伝える貴重なデータを示し、日本の今後の外国人受入れへの示唆もまとめられている。</p>	